キャンサーひょうご

ひょうごがん患者連絡会 ニューズレターNo.30

発行責任者 黒田裕子　　編集 武内・田村・石上・草野
〒651-2109 神戸市西区前開南町1-2-1 阪神高齢者障害者支援ネットワーク内
TEL 078-976-5050 FAX 078-977-0224　http://hyogo-capa.net/

前立腺がんの治療情報は患者に届いているか

前立腺がん支援ネットワーク　武内　務

前立腺がん支援サイトを立ち上げる

前立腺肥大だろうと思いつつ足を運んだ病院で、PSA の異常高値が見つかり度肝を抜かれたのは 2004 年、当時 56 歳の時でした。がんの一部はすでに前立腺の皮膜を突き破り、セカンドオピニオンでも「もはや手術は手遅れ、５年生存率２割」と告げられました。結局、IMRT という放射線治療に辿り着くわけですが、そのような答えは、一般書店で目に触れるどの本にも書いてなければ、多くの病院のサイトを渡り歩いても、なかなか見つけることが出来なかったのです。

たったこれだけのことを知るのに、なぜこれほどの苦労をしなければいけなかったのか。この怒りにも似た気持ちをバネに、治療後、自分で前立腺がんの解説サイトを立上げることを思い立ちました。

前立腺がんと告げられた時、本当に欲しいと思う情報がすぐに見つかるサイトを作りたい・・・そう思いつつ躊躇する日々が続いたのですが、ともかく、思いきってやってみないことには始まりません。

前立腺がんの先進国、米国のサイトを参考にしながら外形を整え、新たに掲示板を開設し、がん情報にアンテナを張り、加筆修正を加え、患者さんの相談にも乗りながら、徐々に体裁を整えて行ったのです。

ひげの父さんというハンドル名で、一患者（素人）が立ち上げたサイトではありますが、昨年は、複数の専門医のチェックも受け、「腺友ネット」という前立腺がん支援サイトに装いを改めました。　http://pros-can.net/
これまでのサイトの内容を引き継いでいるという遺産もあってのことだと思いますが、それからほぼ１年が経過した今、Google で「前立腺がん　治療法」で検索すれば、＜掲示板＞がトップページに、「前立腺がん患者会」で検索すれば、＜腺友ネット＞がすべての TOP に表示されるようになりました。

アカデミズムの世界とは

前立腺がん患者の支援活動を継続して約８年が経過した今、患者からは見えにくい「アカデミズムの世界」が、少しずつ見えてきました。

♪男と女の間には～　深くて暗い川がある～
♪誰も渡れぬ川なれど～　エンヤコラ今夜も舟を出す～

ご存じの方が多いと思いますが、加藤登紀子や長谷川きよしが歌っていた「黒の舟歌」です。
大学という世界では、研究や教育などが全て縦割りとなっており、「隣は何をする人ぞ」ということも決して珍しくありません。
泌尿器科と放射線治療科というのも、まったく別のアカデミズムの世界であり、お互い多少の交流はあったとしても、基本的にはそれぞれ別のシマであり、両者の間には、この歌に似た「深くて暗い川」が横たわっているのです。
泌尿器科医は、放射線治療のトレンドには関心が薄いし、たとえ知っていても、それを患者に勧めることは稀であり、泌尿器科のシマを飛び越えた情報は、なかなか患者には伝わってこないのです。ハイリスクの前立腺がんを例にとれば、私の体験した IMRT が、当時「深くて暗い川」の向こうに隠されていたトレンド情報であり、ブラキセラピー（外照射+ホルモン療法併用）が、現在それと同様の扱いを受けていると言えるのではないでしょうか。

がん患者の教科書とも言わる、国立がん研究センターの「がん情報サービス」にしても、前立腺がんの解説ページに書かれている内容は、まったく泌尿器科のシマ内のことであり、放射線治療の扱いも「深くて暗い川」を隔てて、向う岸をちらりと見やった程度に留まっています。
前立腺がんの治療法は、これら二つのシマに分散配置されているのですが、患者には、この全貌を大所高所から見渡せる視座が与えられていないので、こうした「深くて暗い川」の存在に気付いたとしても、ほとんどの場合は治療を終えた後のこと・・・覆水盆に返らず、です。

セカンドオピニオンを受けるなら

前立腺がんの場合、患者がまず接するのは泌尿器科医。がんと診断されれば告知を受け、詳しい病状や治療法の説明を聞くわけですが、一人の医師からすべての治療法について客観的な説明を聞く事ができるというのは、よほど幸運なケースでしょう。
前立腺がんの治療法は多選択時代を迎えたと言われていますが、これらの治療法のすべてに精通した医師は、現実にはほとんどいないと思われます。

2007 年、ASCO という世界的に有名な学会で、前立腺がんの治療法選択に関する研究発表がありました。泌尿器科医のみからインフォームドコンセントを受けた患者は、多くが「手術」を選び、手術の出来ない高齢者では、ホルモン療法を選ぶ人が多かったのですが、次に放射線治療医の見解も併せて聞いた場合では、こんどは年齢にかかわらず、ほとんどの患者が「放射線治療」を選んだというのです。
患者自身は、予備知識のないことが多いので、始めに説明を受けた先生を信頼し、その意見に追随することが多いからでしょう。

前立腺がんのセカンドオピニオンは、ぜひ放射線治療のシマに脚を運ぶべきです。
日本では泌尿器科のシマで手術を受ける人が７割ですが、欧米では逆に、放射線治療のシマで治療を受ける人が７割を占めています。
二つのシマの間に横たわる「深くて暗い川」は、患者自身で飛び越えようとしない限り、対岸の世界を知ることは難しいのです。

手術ならチャンスは２度？

「手術ならたとえ再発しても、また放射線治療を受けるチャンスがあります。でも、放射線治療なら、チャンスは１度しかありません」
　泌尿器科医から聞く説明で、患者に最も大きな影響を与えているのはこのような説明です。これを聞いて「じゃあ、手術に決めた」という患者さんが大勢おられるので、いわば黄門さまの印籠のようなものですが、はたしてこれは本当でしょうか？
　初回治療で用いられる放射線治療は、近年はブラキセラピー（単独 or 外照射併用）か IMRT が主流となってきました。
　しかし、術後再発のあとの放射線治療では、念を押すまでもありませんが、ターゲットとなるべき前立腺はすでにありません。リカバリー照射というは、元々前立腺があったと思われる「そのあたり」を狙って、さほど強くない（強すぎると正常な組織を傷めます）放射線を当てるだけの治療ですから、成功率はせいぜい 50%、切れ味の鋭い初回の高線量照射とはまったく別物だということを、しっかり知っておく必要があるでしょう。
　無意識あるいは故意に、高線量照射とリカバリー照射を同一視していることが一番の問題であり、二つ目の問題は、それぞれの治療法の再発率を示していないことです。手術と放射線治療の効果は同等と思ってくださいという説明も良くなされますが、これは死亡率を比較した場合であって、再発率の比較ではありません。
限局がんの場合で言うと、手術なら２～３割が再発しますが、適切なブラキセラピー（単独 or 外照射併用）や IMRT では PSA 再発は１割未満、低・中リスクに限定すればほぼ 100%近くが再発もせず、完全に治っているのです。
　再発の可能性の高い治療を２回受けるか、初回治療の一発勝負で治したいかと問われれば、患者は後者を選ぶに違いありません。
「手術ならチャンスは２度」というのは、まやかしに過ぎません。

新しい治療法

　今振り返っても、私が治療を受けた IMRT は当時としては最善の選択であったと思うのですが、現在ならどうするかと聞かれると迷いますね。IMRT は画像誘導や自動制御ではその後も技術の進化が見られますが、照射線量がさほど増えていないのが不安要素です。
　ハイリスクの前立腺がんにおいては、ブラキセラピー（外照射+ホルモン療法併用）の好成績が、ここ数年目立つようになってきました。IMRT を凌駕する線量を、安全に照射することが可能で、前立腺の位置変動には影響されず、一定の浸潤にも高い「非再発率」で対応できる。こうした施設はまだ限定的ではありますが・・・今後は、これが一押しの治療法と言えるのではないでしょうか。

　粒子線治療が最先端技術のように言われていますが、300 万前後の費用がかかるにもかかわらず、ブラキセラピーや IMRT と比較し、治療成績が上回るという報告はありません。重粒子線のようなエネルギーの高い放射線でなければ太刀打ちできないがんもあるので、その必要性は判るのですが、現在、我国では次々とこれらの大型施設の建設が進んでいます。しかも、その患者の多くは、ぜひ粒子線治療が必要だとは思えない前立腺がんの患者です。こうした治療を受けた患者から、保険適用を望む声もあるようですが、これにより、ますます前立腺がん患者の不必要な囲い込みが強まることには、少し違和感を覚えています。

　手術分野で最近注目を浴びているのは、やはりダ･ヴィンチ（ロボット支援手術）でしょう。

離れた場所で３次元画像を見ながら、360 度回転する腕を細かく操作できるというのは、アトム世代の我々よりも、ガンダム世代の医者のほうが飛びつきやすいのではないでしょうか。腹腔鏡に比べ、操作が覚えやすいとか、患者の出血量も減ったとか言われていますが、前立腺がん手術のほとんどがこれに置き換わった米国では、「ダ・ヴィンチ訴訟」というものが増えており、非再発率も開腹手術と比べても、ほとんど改善されていないということなので、むやみに飛びつくと期待外れに終わることもありそうです。

治療法選択の物差し

前立腺がんの５年生存率は、去勢抵抗性の転移･再発がんを除いて、ほぼ 100%に近づいたと言われています。どの治療法を選んでも、すぐに死亡するということはめったになくなり、治療法の選択において、「生存率」という物差しはすでにその意義を失いつつあります。今後注目すべきは「非再発率」という物差しではないでしょうか。がん登録の統計として公表されているのは「死亡率」や「罹患率」ですが、これに「非再発率」も加えていただけるなら、大変ありがたいと思っています。

「QOL」というのも良い物差のひとつと言えるでしょう。治療時の身体への負担もそうですが、後で振り返れば、治療前後に限定されたものであれば、一時的なものとして忘れ去ることもできますが、治療後も継続する、もしくは治療後に出てくる副作用は、下手をすれば一生その不自由を引き摺って、老後を生きていかねばなりません。

患者が治療法を選択するにあたっての物差しは、人によって異なります。これまで生きてきた背景が異なるゆえ、むしろそれは当然のことと言えるでしょう。患者が最終的に下した判断は、決して横からとやかく言われる筋合いのものではなく、最大限尊重されねばなりません。それだけに、患者が治療法を選択するにあたり、判断に必要な情報を入手できるだけの環境を整えることが重要になってくると思われます。

前立腺がんにも患者会が欲しい

腺友ネットのアクセスは約 150 件/日、その中の掲示板へは、直接アクセスする人も含めると平均約 250 件/日。すべてが患者ではないものの、患者中心のクラスターの存在は感じられると思うのです。そう思う人も増えて来たせいでしょうか、最近は、前立腺がんの患者会が欲しいとか、患者会を作らないのですか、などという声をよく耳にするようになってきました。
女性のがんで患者数の最も多いのは乳がんであり、患者会の数もダントツに多いのですが、男性のがんで最多の患者数である前立腺がんには、未だに患者会が存在しません。（特定の病院で同種治療を受けた患者会は、私の知る限り２つあります）

前立腺がんの解説サイトを立上げた当時は、患者会の設立などということはまったく頭になかったのですが、昨年「腺友ネット」を立ち上げた頃から、前立腺がんにも患者会というものが必要かもしれないと思い始め、ぼんやりと構想を練ったりもしていたのですが、考えれば考えるほど、先が読めずに難しい。むしろ深く考えず、エイヤッと会員の募集を始めてしまったほうが良いのではないかと、近頃はそう思うようになってきました。
具体的に動き出すまでには、もう少し時間がかかりそうですが、いずれそう遠くないうちに前立腺がんの患者会の設立に向けてのスタートを切れればと思っています。
小さく生れて、ゆっくりと、大きく育つことを願いながら。

ひょうご がん患者連絡会の活動概況を紹介します

（2013 年６月、７月 活動分）

事　務　局

2013 年６月３日（月）：兵庫県「いのちと生きがいﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」の実績報告会兼 25 年度支援金授与式に参加ました。

実績報告会では、ひょうご がん患者連絡会の平成 24 年度の「がん対策推進に関する」取組みについて報告し、推薦者である井戸兵庫県知事立会いの下、敬愛まちづくり財団 堀理事長から 25 年度活動に対する支援金をいただいた。兵庫県と連携して、がん対策の推進に引続き貢献して参ります。

2013 年６月３日（月）：兵庫県の委託による日本ホスピス・在宅ケア研主催の「ピアサポータ養成講座」フォローアップ研修会に参加しました。

平成 23、24 年度の「ピアサポータ養成講座」への当会からの参加者は１７名であった。参加者は皆がん患者のサポートに貢献したいと希っており、この度フォローアップ研修会が開かれ 10 名が参加した。

2013 年６月 20 日（木）：兵庫県医務課との「在宅医療推進」に関する話合い、及び第２回運営委員会を開きました。

（１）医務課からは厚労省の「在宅医療の現状に関する」資料、及び兵庫県保健医療計画の「在宅医療計画」に基づく医療福祉関係のリーダー対象の研修会開催について報告があった。患者の病院から在宅への移行が進む中で、厚労省からは既に 24 年度に具体的施策が示されており、兵庫県においても研修会開催と並行して在宅医療課題への施策の推進に取組むように要請した。

（２）運営委員会では、神戸低侵襲がん医療センター見学会開催ほかを決定しました。

10 月 20 日（日）開催予定の市民講座「“神戸低侵襲がん医療センター”における先進的がん治療」に先立って、8 月 15 日（木）に医療センター病院の見学会を開催する。

2013 年７月 15 日（月）：「コープこうべ」から“虹の賞”を戴きました。

ひょうご がん患者連絡会のがん対策推進活動等の福祉活動に対して、「コープこうべ」から「虹の賞」の“奨励賞”を戴いた。表彰式には黒田会長が出席し賞状と副賞金を戴いた。

2013 年７月 18 日（木）：がん対策推進課題の兵庫県との協働活動事項に関する県当局との打合せ、及び第３回運営委員会を開きました。

（１）今年度からの活動である「兵庫県がん対策推進計画」には、分野別施策として「患者団体等と連携した相談支援等の実施」が定められている。この課題に対して、成果の挙がる取組みを行うことは我々患者団体に課せられた責務と考えて、県当局との協働活動事項に関する「今年度の実行計画づくり」をテーマに打合せ会を開催した。

兵庫県からは疾病対策課長及び課長補佐のお二人に参加いただいて「実行計画づくり」の前提となる「がん検診重点市町」の決定、県下 41 市町との連絡会議の開催予定等について説明頂き、改めて話合いを持たせて頂く事にした。

なお、標記議題のほかに、5 月 17～19 日開催の日本医療政策機構がん対策情報センター主催「がん政策サミット 2013 春」（テーマ「県計画の好事例を共有し実践する」）への参加報告を行った。疾病対策課長から、兵庫県は形にこだわるのではなく内容のある進捗管理を行って成果を挙げていくとの説明をいただいた。

（２）運営委員会での主な決定条項は次にとおり。

１）9 月 14 日開催の「拠点病院実務者ミーティング」における患者会との連携活動に関する話合いへの対応、出席者、及び講演者を決定した。

２）兵庫県との連携による出前講座講演者の手当てについて確認した、

３）「兵庫県がん対策推進条例」制定への取組みについて確認した。

2013 年７月 21 日（日）：がん医療市民講座を開きました。

関西労災病院の心療内科・精神科兼緩和ケア科部長 辻本 浩 先生をお迎えして「がん と こころ 」と題する講演をしていただいた。

先生には、この難しい課題に関して分りやすく説明をして下さり、質問にも丁寧に答えていただいた。

会場には、兵庫県以外に大阪府、三重県からも参加頂き、がん患者の関心の高さがうかがわれ、盛会でした。

講演概要は、次ページをご覧下さい。

市民講座「 がん と こころ 」の講演概要をご紹介します

事　務　局

関西労災病院（心療内科・精神科/緩和ケアチーム）の辻本　浩先生にご講演お願いしました。

神戸市教育会館　501 号室にて　14：00～16：30　参加者：約 40 名でした。

くだけた自己紹介で会場をなごませ、がん医療現場において精神科の関わる諸問題や市中総合病院で精神科の果たす役割を、判り易くお話頂きました。

１、関西労災病院は地域がん診療連携拠点病院であると共に「勤労者医療、脳・循環器医療、がん医療」に重点を置く総合病院として、市民病院の代役も果たしている。（尼崎には市立病院はない）

２、緩和ケアの中で行われる精神科の役割について

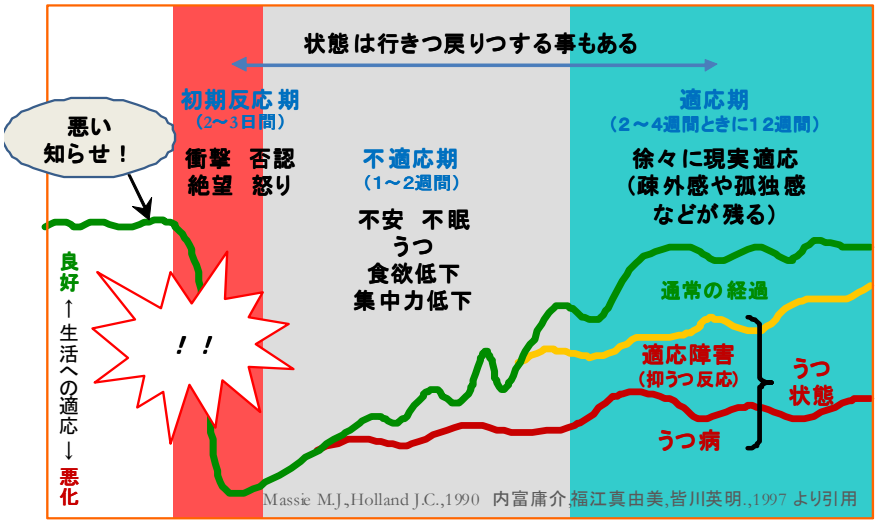
- 患者や家族の全人的（特に精神面の）苦痛に対するケア
- 患者や家族の心理状態（問題）についての見立てとそれらに関する助言
- 向精神薬の調整（精神症状緩和　鎮痛補助　副作用対策　他）　･･･など、など。

３、精神的苦痛について

精神的ケアとは、どちらかといえば「治療」的よりも「看護」的であり、患者のニーズを知って多様な精神症状を軽減するだけではなく、患者の心に寄り添い、たとえ手立てが無いような状況でも

・"not doing, but being"･･･「なにもしなくとも、傍にいる」だけでも救いになる。

４、がん告知など「悪い知らせ」の心理変化について



・「うつ状態」を
　ケアするためには
「先々の見通し」を
　話合うことが
　大切である。

５、「気持ちのつらさ」と「不安・抑うつ」について

・がんになった人は何を心配するか･･･命（55%）よりも治療費（72%）への心配も大きい。

・「痛み」が増大すれば「不安・抑うつ」が増し、「不安・抑うつ」が増大すれば「痛み」も増す。
この悪循環を断つには、まず始めに疼痛緩和、次に向精神薬により精神の安定を図る。

お話の内容は、患者会としても心掛けるべきことが多く、いくつかの患者会代表から機会があれば、またお話をお伺いしたいという声も聞かれました。

関連団体等の公開講座行事予定（2013 年８,９月）

日時・場所	主催(TEL)・会費	テーマ・主な内容・講師
８月３日（土） 10：00～17：30 シーサイドホテル舞子ビラ神戸	小児がん・脳腫瘍全国大会第１日 エスビューロー(072-622-6730) 詳細 http://www.es-bureau.org/ 無料(7/31 まで要申込)	10：00 ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ「孤立しない孤立させない」 ・講師 臨床心理士 竹田伸子氏 14：30「みんなで考えよう、これからの小児がん医療」グループワーク１日目
８月４日（日） 10：00～15：00 シーサイドホテル舞子ビラ神戸	小児がん・脳腫瘍全国大会第２日 エスビューロー(072-622-6730) 詳細 http://www.es-bureau.org/ 無料(7/31 まで要申込)	10：00「みんなで考えよう、これからの小児がん医療」グループワーク２日目 13：00「小児がん最新医学情報セミナー」 ・講師：松元臨床心理士、岡田・中面 Dr.
８月６日（火）13：30～16：00 ８月 14 日(火) 13：30～16：00 明石市立生涯学習ｾﾝﾀｰ8 階	ゆずりは明石「ピアサポート勉強会」 (078-911-6761 草野) 会員・学生 500 円、一般 700 円	8/６「がんの基礎知識」譜久山剛医師 8/14「傾聴について」阪田憲次郎准教授 （神戸学院大総合ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部）
９月７日（土）、８日（日） 16：00～ ～10：00 芦屋市川西運動場＆体育館	リレーフォーライフ関西実行委 （連絡先：info@rfl-ashiya.net） 募金協力を！	リレーフォーライフ芦屋 2013 「ともに生きる勇気とよろこびを！」 がんに立ち向う思いを語り一緒に歩こう
９月 14 日（土） 14：00～16：30 兵庫県民会館３０４号室	ゆずりは公開講座 （078-976-5050） 会員・学生 500 円、一般 800 円	「過ぎゆく時の中でできること」 ・ヴォーリス記念病院 ホスピス(希望館) 細井 順 医師

関連団体等の「がんサロン」予定（2013 年８,９月）

主催(TEL)・会費・場所	テーマ・主な内容・講師	日　時
ゆずりは明石「明石話そう会」 （078-911-6761 草野）無　料 兵庫県立がんセンター １階	患者、家族の悩みを分ち合い 前向いて生きる寄り添える会を 目指しています	・毎月第 1,3 月曜日 10：00～12：00
ゆずりは明石「明石楽しもう会」 （078-911-6761 草野） ～会費・場所は右欄記載～	8/21「ﾗﾌﾃﾞｨｰﾖｶﾞと南米ｺﾛﾝﾋﾞｱの写真鑑賞」 おさるの健康の里 植田弘一氏　300 円 9/9 「免疫力アップの料理教室」定員 25 名 管理栄養士 福元雅代氏　材料込 500 円	8/21(水)10：00～12:00 明石市生涯学習ｾﾝﾀｰ８階 9/9(月)10：00～13：00 明石市立保健ｾﾝﾀｰ　３階
ゆずりは明石「がん相談」 （078-911-6761 草野）無　料 明石市立保健センター1 階	「がん」についての無料相談 相談員：ゆずりは明石会員の 看護師・保健師・がん体験者	・毎月第４火曜日 13：00～16：00
ゆずりは「がんサロン」 （078-976-5050）500 円（茶菓子代） 地下鉄伊川谷駅構内伊川谷工房	お茶を飲みながら 病や悩みについて 自由に語り合います	・８月はお休みです ・毎月第４火曜日 13：30～15：30
ゆずりは淡路「淡路市サロン」 （090-6734-1275 山本）無　料 淡路市社会福祉協議会 １階	ひとりで悩まないで 患者さんや家族の方同士で 話し合いましょう	・毎月第４金曜日 14：00～16：00
ゆずりは淡路「南あわじ市サロン」 （090-6734-1275 山本）無　料 南あわじ市社会福祉協議会三原支部	ひとりで悩まないで 患者さんや家族の方同士で 話し合いましょう	・毎月第２水曜日 14：00～16：00
神戸医療ｾﾝﾀｰ「コスモスの会」 (078-791-0111、内線 460) 無 料 神戸医療ｾﾝﾀｰ「がん相談支援室」	・苦しみや悩みなどの気持を 自由に語り合い支え合いましょう ・情報交換をして知識を高め合いましょう	・ 毎月第３水曜日 14：00～16：00
県立淡路病院「菜の花サロン」 (0799-22-1200) 無　料 県立淡路病院１階「医療相談室」	どなたでも 自由に参加されて 自由に語り合いましょう	・ 毎月第３火曜日 ９：30～12：00
だいとうクリニック「花みずき」 (079-222-6789) 無　料 姫路市白銀町中ノ門ｼｬﾎﾟｰﾋﾞﾙ１階	・患者や家族間のコミュニケーション ・医療情報の提供 ・療養相談全般 ・インターネット検索・ちょっと休憩	・サロン：第３火曜 14：30～16：00 ・絵手紙教室：第３火曜 12：00～14：00

ひょうご がん患者連絡会行事予定（2013年８,９月）

日　　時	行事・会費	テ　ー　マ・講　　師	場　　所
８月15日（木） 15：30～17：00	神戸低侵襲がん医療 センター見学会	引率者： あじさい会　去来川代表	低侵襲 がん医療 センター
17：00～18：30	第４回運営委員会	――――――	
９月19日（木） 18：00～20：00	第５回運営委員会	――――――	神戸ｸﾘｽﾀﾙ ﾀﾜｰ４階
10月20日（日） 14：00～16：30	第２回がん治療 市民講座	「神戸低侵襲がん医療センターにおける 先進的がん治療について」 病院長　　藤井正彦　医師	明石市 生涯学習 センター
16：30～17：00	第６回運営委員会	――――――	

ニューズレターの編集について

このニューズレターは、４団体から応募いただいた編集委員による協議で編集し、会長の査閲を経て発行しています。

ニューズレターは2008年９月の創刊号以来、奇数月に発行し、ひょうごがん患者連絡会の活動概要報告及びお知らせページのほかに、文頭に各会員の持ち回り執筆文及び寄稿文を掲載しております。

各団体の会員のみなさま、および行政、医療、報道関係のみなさま方には、各会員の持ち回り執筆記事と併せて、ひょうごがん患者連絡会の活動概要にもお目通し頂き、ご意見などお聞かせいただきたく存じます。　　（ 事 務 局 ）

編 集 後 記

いつもより早く梅雨が明けたと思っていたら、急に真夏日・熱帯夜の連続で、夕方になると、六甲の空が茜色の染まるのは嬉しいのですが、世間では熱中症で倒れる人が増え、野菜も悲鳴を上げているとか。水分の摂取を怠らず、くれぐれもご自愛のほどを。子供頃、蝉取りに興じた名残でしょうか、蝉しぐれが聞こえる季節になると、庭の木にとまる蝉の数を数えるのが楽しみですが、すでにアブラゼミ、ニイニイゼミ、クマゼミの三役も出揃い、盛りを迎えようとしています。７回目となる「リレーフォーライフ芦屋」の準備も、いよいよこれから大詰めを迎えます。今年の開催は９月７～８日、サバイバーを称え、勇気づけるお祭りで、申込受付はすでに始まっており、収益金は日本対がん協会を通じて、がん患者支援活動に使われます。夜を徹して、ルミナリエの光が揺れる会場を、チームで力を合わせて歩いてみませんか？　（ 事務局長　武内　務 ）